

## 水と緑の少年隊からの提言

足尾・松木地区の山々は、私たち3,200余名の少年隊員をはじめ関係者の熱意と努力により緑と渡良瀬川下流域の水源林としての機能が取り戻されつつあります。

サクラやツツジ、シラカバ、モミジ、カエデなどの植樹木は、足尾の厳しい自然環境の中で立派に根付き、春には満開となり桜雲のような園を形成する桜やツツジが咲き誇り、夏には若葉をまとった木々が生命の息吹を感じさせ、秋にはモミジやカエデが色づき、冬はすっかり葉を落としたシラカバなどが冬景色の中に佇んでいます。松木川も清らかに流れています。

今や、松木地区の四季折々の風情は、訪れる者に潤いを与える素晴らしい場所に変貌してきています。

私たちは、足尾の植樹活動に参加し、多くの貴重な体験と沢山の感動を得ることができました。

そして、①木一本植えることの大変さを知り、②環境について改めて考え、③このような環境でも自然は再生することができるという希望を見出し、④未来にかかわることをしたという達成感のもと今後も自然保護活動に参加することの大切さを学ぶことができました。

足尾の植樹活動は、私たち隊員の心に一つのレガシーとして息づいています。足尾・松木地区は思い出に残る場所であり、自分の植えた木がどのように成長し、どうなっているか、ふと思い出すことがあります。

そこで、この素晴らしい自然をより多くの人々に開放することはいかがでしょうか。

足尾・松木地区が多くのボランティアの熱意と努力により見事に蘇った証として後世に伝えるために、より多くの人々が自由に散策でき、それぞれの想いに浸る場所を提供することを提言いたします。

春

“山笑う”松木地区で満開の桜やツツジを堪能



夏

“山滴る”松木地区で木々の生命の息吹を感じ



秋

“山粧う”松木地区で郷愁に浸り



冬

“山眠る”松木地区で物思いにふける





## 春の陽の中ではじけるオオヤマザクラ

今年も足尾・松木地区に遅い春がやって来ました。  
立派に成長したオオヤマザクラやシラカバなどの植樹木は、待ちわびた春の陽の中、それぞれの春を演出しています。

## 編集後記

今年も日光市足尾町（旧 足尾町）松木地区に遅い春がやってきました。水と緑の少年隊による植樹活動により平成14年度から植栽されたオオヤマザクラ、シラカバなどの植樹木は立派に成長し、見事な桜の園や新緑の森を形成し、訪れる者を楽しませてくれています。

これまでの多くの少年隊員の活動の証として、平成14年度から平成30年度までの17年間の隊員の“熱い想い”をまとめた植樹活動の記録「足尾の山は蘇りました」をここにお届けいたします。

不慣れな編集作業でしたが、皆様のご協力あって無事終えることができました。特に、参加者アンケートの実施にあたりましては、文星芸術大学附属中学校及び作新学院小学部・中等部の先生方、NPO法人とちぎ生涯学習研究会 柴田代表には大変お世話になりました。

出来る限り隊員それぞれの足尾に寄せる想いを発信したいと、写真を主体に隊員の生き生きとした表情を、また、アンケートを通して、隊員の感想を掲載しています。

足尾の植樹活動は、貴重な体験として隊員一人ひとりの心に息づいています。本誌が業界の内外を問わず閲覧され、県内の自然環境保護が一層推進されることを祈念しています。

末筆ではありますが、本誌の編集にあたりましては、栃木県造園建設業協会の会員、役員の皆様はもとより、多くの関係者の方々にご協力をいただきましたことに心より御礼申し上げ、終章末尾とさせていただきます。

令和3年5月

（一社）栃木県造園建設業協会  
事務局長 黒 崎 恵 二

# 足尾の山は蘇りました

## 旧松木村に緑の森を

水と緑の少年隊による植樹活動の軌跡

2021(令和3)年●月●日発行

【編集・発行】 一般社団法人 栃木県造園建設業協会  
〒321-0111 栃木県宇都宮市川田町108-3  
電話 028-612-2246

【制作】 下野新聞社

【デザイン】 株式会社コンパス・ポイント

【写真協力】 小野崎 一

【印刷】 株式会社松井ピ・テ・オ・印刷

©2021 Printed in Japan 無断での複写・転載を禁じます。

